

# 内科・糖尿病内科

## 担当医師 井口昭久教授

### の記事が掲載されました。

1月23日 朝日新聞 朝刊（毎月1回掲載中）

## 老年学

## 不安 日の前にこそ



The Asahi Shimbun

先月のこの欄で、私が骨折をして入院生活を送ったとしたら、憂いに満ちた入院生活を送るだろうが、できることなら過去を憂えたり未来に不安を感じたりしないチンパンジーのアイちゃんのようになって介護を受けたいと書いた。掲載から1週間後、私は骨折をした。両手にクリーニングの袋を持ってスーパールの駐車場を歩いていた時に、忘れ物をしたような気がして振り返った。その時、左手に持った荷物が左足が出るのを妨

愛知淑徳大学教授  
医師

### 井口 昭久

げ、右足が折れ曲がった。右手にも重い袋を提げていたので右ひざへ体重のすべてがかかったまま、コンクリートに打ちつけられた。入院して手術を受けた。

前回あんなことを書いたから骨折してしまった、と思った。そして振り返ることさえしななければこんなことにはならなかったと後悔した。手術後、右足は固定され、右手に点滴を受けた。身動きできない状態で天井を見つめてベッドで寝ていた。院内放送があった。

「地震がありました。責任者は至急集まって下さい」。私は病院の個室に一人取り残されてしまう恐怖におびえた。後で知ったが、その日は防災訓練の日であった。

入院中いろいろな思い悩みはしたが、後悔や不安の対象は、人生の始まりから今日までの来し方ではなく、今日から終わりまでの行く末でもなかった。直近の過去を憂え、目の前の未来が不安であったに過ぎなかった。